

社会生活を送るなかで、外国語を使って必要な事柄や気持ちを伝えたり、情報や知識をやりとりする機会が多くなりました。仕事のために否応なく外国語を使わなければならないことも確かに少なくありませんが、それよりも、外国語を身につけることによって、より心豊かに生きてゆけるのだと考えるほうが肯定的で良い姿勢でしょう。泳ぐのを覚えたりギターが弾けたりするようになれば、それだけ生きる喜びが増すのと同じことです。外国語を媒介にして、より広い範囲の、文化的背景が異なる人たちと、映画・スポーツ・音楽など、自分の関心のある事柄について情報や感じ方を伝え合うのは楽しいものです。

歴史的な事情から、現在、いちばん通用性の大きな外国語は英語です。ですから、少なくとも易しい英語だけは大学生の間に使えるようにしましょう。そして、英字新聞の一般記事の大意が理解できるくらいにはしておきましょう。すでに易しい英語が使える人は、表現力を豊かにするように心がけましょう。例えば、自分の専門領域について英語で意志疎通ができるようになるといいですね。

英語が使えるようにするために大事なことをいくつか書いておきます。

第一に、理解できるのと使えるのとは次元が違うということを認識してください。例えば、大学受験レベルの英語が理解できるからといって、中学校レベルの英語が使えるということではありません。理解できないものはもちろん使えませんが、理解できるというのは、使えることへの単なる一歩にすぎません。

第二に、最も基礎的な水準—例えば、中学校レベルの英語—の構文や語彙を徹底的に練習した人だけが英語が使えるようになります。このレベルの構文と語彙がすべての土台です。土台がしっかりしていなければ、その上に何を載せても崩れてしまいます。基礎レベルの英文が無意識に正しく言え、書けるようにしましょう。

第三に、英語を習得するのは、みなさん自身です。教員は、習得の手助けはできますが、記憶するのはみなさんの脳であり、話すのはみなさんの口であり、書くのはみなさんの手です。これから掲げるシラバスには到達目標が書いてありますが、それに到達できるのは、教員の指示にしたがって十分に自学・自習する人たちだけです。

第四に、英語はできるだけ毎日練習するようにしましょう。スポーツや楽器と同じです。いつも練習していないと、せっかく身につけた力もたちまち落ちてしまいます。

第五に、英語を理解することと日本語に訳すこととを混同しないようにしましょう。翻訳作業をしているのでもない限り、日本語訳は英語が理解できているかどうかを測る一つの目安にすぎません。ある文脈のなかで与えられた英文の構造、及び使用されている語彙・表現からその英文によって伝えられるべき意味が正しく理解できれば、それでいいわけです。英語を英語として理解する—それを目指に英語学習を進めてもらいたいと思います。

神奈川大学の英語カリキュラムは、全体として、英語をコミュニケーション—話し言葉と書き言葉による意志・気持ち・情報・知識の相互伝達—の道具にすることを目指して組み立てられています。

しかし、必修科目としての英語—「クラス英語」と呼んでいます—だけでは、英語の力を伸ばすためには不十分だと言わねばなりません。ですから、それらに加えて、「選択英語」をできるだけたくさん履修してください。「選択英語」は、特に力をつけたい分野(「読解」、「会話」、「作文」、「リスニング」など)を適切なレベルで学修できるようになっています。

また、2006年度から、コンピュータを使った「Eラーニング・システム」が導入され、学内・学外を問わず、オンラインで英語の自主学習ができるようになりました。大いに活用して力を伸ばしてください。

では、心豊かな学生生活が送れるように頑張ってください。努力を厭わなかった人たちには、その努力の分だけ—いえ、きっと、それ以上の達成・喜びが約束されることでしょう。

1 「クラス英語」

対象：1年次生

習熟度別のクラス編成になっています。習熟度のレベルは、EL(=Elementary)、IN(=Intermediate)、AD(=Advanced)の3段階です。

EL レベルの目標は、日常生活に必要な平易な英語を理解し、平易な英語で意志疎通ができるようになることです。

IN レベルの目標は、日常生活に必要な英語を理解し、英語で意志疎通ができるようになることです。すでに英語の基礎力のある人たちが対象です。

AD レベルの目標は、日常生活や社会生活に必要な英語を理解し、表現できるようになることです。すでに TOEIC® のスコアが500点を超えるくらいの英語力がある人たちが対象です。

レベルは、みなさんが4月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。レベル決定後は、

それぞれのレベルの「英語（理解）Ⅰ」と「英語（表現）Ⅰ」を前期に履修し、「英語（理解）Ⅱ」と「英語（表現）Ⅱ」を後期に履修します。

「英語（理解）」では、主に、読解、及び（または）リスニングの指導が行われます。

「英語（表現）」は、ネイティブ教員による授業です。主に、作文、及び（または）会話の指導が行われます。

なお、「クラス英語」においては、授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

2 選択英語

「クラス英語」だけでは学習時間が足りません。その不足を補いながら、さらに実力を伸ばすための授業科目です。「選択英語」では、一般に、力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また、いくつかのレベルで授業を開講していますから、自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。

「選択英語」は、系統的・段階的に履修することができます。

- 英語で話したり、議論ができるようになりたい。
→「英語会話・初級～上級」「英語リスニング・中級～上級」を履修する。
- 英語でメールや論文のレジュメが書けるようになりたい。
→「英語作文・初級～上級」を履修する。
- TOEIC®テストのスコアを伸ばしたい。
→「TOEIC 演習・初級～上級」を履修する。

「再入門」の到達目標は、簡単な日常会話ができ、簡単な文章の読み書きができるようになることです。「会話入門」の到達目標は、簡単な日常会話ができるようになることです。どちらも初歩から始めます。

「初級」レベルの到達目標は、「会話」では、日常的な事柄について会話ができるようになること、「作文」では、日常的な事柄に関する文章が書けるようになること、「リスニング」では、日常的な事柄に関する英語を聞いて理解できるようになることです。すでに TOEIC®のスコアで250～400点の英語力のある人たちが対象です。

「中級」レベルの到達目標は、「会話」では、一般的な事柄について会話ができるようになること、「作文」では、一般的な事柄に関する文章が書けるようになること、「リスニング」では、一般的な事柄に関する英語を聞いて理解できるようになることです。すでに TOEIC®のスコアで400～550点の英語力のある人たちが対象です。

「上級」レベルの到達目標は、「読解」と「リスニング」では、一般的な事柄および専門的な事柄に関する英語を理解できるようになること、「会話」では、一般的な事柄について会話ができ、専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになること、「作文」では、一般的な事柄について文章が書け、専門的な事柄についても要点が書けるようになることです。すでに TOEIC®のスコアで550点以上の英語力のある人たちが対象です。

なお、「TOEIC 演習」の到達目標スコアは、概ね「初級」は500点、「中級」は600点、「上級」は700点以上です。

開講科目は、以下の通りです。「～Ⅰ」が前期科目、「～Ⅱ」が後期科目で、ⅠとⅡを連続して履修するのが原則です。授業内容については、『シラバス』を参照してください。

「英語・再入門Ⅰ」「英語・再入門Ⅱ」

「英語読解・上級Ⅰ」「英語読解・上級Ⅱ」

「英語会話・入門Ⅰ」「英語会話・入門Ⅱ」

「英語会話・初級Ⅰ」「英語会話・初級Ⅱ」

「英語会話・中級Ⅰ」「英語会話・中級Ⅱ」

「英語会話・上級Ⅰ」「英語会話・上級Ⅱ」

「英語作文・初級Ⅰ」「英語作文・初級Ⅱ」

「英語作文・中級Ⅰ」「英語作文・中級Ⅱ」

「英語作文・上級Ⅰ」「英語作文・上級Ⅱ」

「英語リスニング・初級Ⅰ」「英語リスニング・初級Ⅱ」

「英語リスニング・中級Ⅰ」「英語リスニング・中級Ⅱ」

「英語リスニング・上級Ⅰ」「英語リスニング・上級Ⅱ」

「TOEIC 演習・初級Ⅰ」「TOEIC 演習・初級Ⅱ」

「TOEIC 演習・中級Ⅰ」「TOEIC 演習・中級Ⅱ」

「TOEIC 演習・上級Ⅰ」「TOEIC 演習・上級Ⅱ」

「英語（留学生初習）A－Ⅰ」「英語（留学生初習）A－Ⅱ」（外国人留学生，及び帰国生徒等のみ）

「英語（留学生初習）B－Ⅰ」「英語（留学生初習）B－Ⅱ」（外国人留学生，及び帰国生徒等のみ）

なお，選択英語の科目の多くは「履修制限科目」です。通常の履修登録に先だち応募し，抽選の結果で履修が決定します。抽選の結果，まだ空きがある科目に限って通常の履修登録時に登録が可能です，履修したい科目がある場合は「履修制限科目」への応募を行ってください。

また，クラス英語同様，授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので，きちんと出席してください。

3 「クラス英語」の再履修

「クラス英語」の再履修者のための授業として，「英語 RE－Ⅰ」，「英語 RE－Ⅱ」があります。授業回数の3分の2以上出席した人たちだけが評価の対象になります。成績評価は，原則として，60点を最高点とします。